

2026.7.1.

NPOフォーラム だより No.123



NPO法人安房文化遺産フォーラム (共同代表：愛沢伸雄, 池田恵美子)

〒294-0045 千葉県館山市北条 1721-1 TEL&FAX : 0470-22-8271

E メール awabunka@awa.or.jp 公式サイト <https://awa-ecom.jp/bunka-isan/>

会員・寄付募集中! 年会費=正会員 A:10,000 円 (総会議決権あり)・準会員 B:2,000 円・法人 10,000 円
(ゆうちょ銀行口座: 0 0 2 6 0 - 1 - 9 7 3 0 7 名義 NPO 法人安房文化遺産フォーラム)

◆ 第 92 回知恵袋講座

< 知恵袋講座は、NPO メンバーが講師となって、楽しく学び語り合う茶話会です。 >

「紀州太地ツアーの報告」 語り手：上田敦子さん・齊藤陽子さん・西木はな子さん

7月30日(木) 13:30~16:00 菜の花ホール第1集会室

参加費：会員 200 円・非会員 500 円 (茶菓子付)

昨年度、当 NPO は「和歌山移民研究を軸とした国際交流事業実行委員会」に参画し、移民史・美術史・水産史をめぐる広域連携の文化庁事業において、日米共同調査やシンポジウム「太平洋まるごと博物館～紀州と房州とカリフォルニア～」などを開催しました。小谷源之助・仲治郎兄弟が率いる房総アワビ漁師らが活躍したモンレーでは、千葉より和歌山の移民のほうが多いことも明らかになりました。展覧会「舩う移民--紀州、房州、モンレーを結ぶ移民」は館山と太地で開催されました。NPO メンバー 3 名は会期中の太地を訪問し、太地町教育委員会の櫻井敬人学芸員のガイドを受け、多くの学びと深い感銘を得たそうです。有意義な紀行報告をお聞きしましょう。



◆ 東金の歴史建物探訪 バスツアー

共催：安房高等女学校木造校舎を愛する会

11月9日(月) 集合 8:15 北条海岸 P 8:30 出発~17:00 帰着予定 定員 25 名 (会員限定)

参加費 3,500 円 (見学ガイド料・会席弁当代を含む) 申込：090-6479-3498 池田

東金市は昨年 12 月に「文化財保存活用地域計画」が文化庁の認定を受けています。東金高校の記念館は、旧東金高等女学校の西洋作法室として明治期に建てられた県登録有形文化財です。徳川家康ゆかりの歴史的景観が残る八鶴湖や東金駅西口周辺は、大正~昭和初期の歴史建物が多い町並みや旧道が「ちば文化資産」に選定されています。これらを保存し、まちづくりに尽力している市民活動の話の伺い、学習・交流を図ります。見学地については中面をご参照ください。途中乗車や現地合流は応相談。

◎ 新刊「決定版！日本の戦争遺跡」

B5 判 688 頁 14,300 円 (税込)

編集：戦争遺跡保存全国ネットワーク 発行：大月書店

(以下の項目は、NPO 愛沢伸雄/池田恵美子が執筆)

第 1 部：戦争遺跡の調査・研究／

- ・史資料の調査方法 (国外編)
- ・エコミュージアムと戦争遺跡 (事例編)

第 2 部：戦争遺跡案内 (千葉)

- ・館山海軍航空基地・館山海軍航空隊赤山地下壕跡
- ・館山海軍砲術学校跡・房総半島南部の特攻基地群
- ・『沖繩作戦ノ教訓』と本土決戦の抵抗拠点・大房岬要塞群

※ 閲覧希望の場合は NPO 事務所まで。

年内は会員限定特別販売 11,000 円 (税,送料込) ⇒ NPO 事務局まで。



* 東金高校 記念館 (西洋作法室)・茶室・正門 <県登録文化財>

前身の東金高等女学校の西洋作法室と茶室、正門は 1911 (明治 44) 年に建築され、設計者は県の建築技師であった後藤政治です。戦後、西洋作法室は校長室としても使用され、平成 11 (1999) 年の改修を経て、現在は記念館として利用しています。正門は中央に 2 本の親柱、両側に控え柱を立て、門柱上端には、西洋作法室屋根のドーマー窓に呼応する意匠からなる花こう岩の笠石を乗せています。



* 八鶴亭 (旧八鶴館) <国登録文化財>

八鶴湖ほとりの老舗旅館で、大正から昭和初期に建立した本館・新館・宿泊館・浴室棟・ビリヤード棟の 5 棟が登録されています。北原白秋や伊藤左千夫ら多くの文人墨客が滞在し、上皇 (学習院中等部在籍の皇太子時代) や皇族も訪れました。料亭としても使用されましたが、台風とコロナ禍を経て営業停止。2023 年に保存会「みんなの八鶴館」を発足し、まちづくり会議や掃除&修繕ボランティア、貸室・貸しホール、クラウドファンディングでホールのカーテン新調などに取り組んでいます。



* 多田屋本社社屋 (旧東金税務署) <国登録文化財>

多田屋は江戸末期創業の県下で最も古い書店。明治末期建築の東金税務署を、多田屋書店が 1973 (昭和 48) 年より利用。木造 2 階建、瓦葺。平面はコの字型で、中央に玄関を設け、外壁は下見板張で構成される洋風建築。中央正面 2 階のテラス状のスペースと、屋根の中央に設けられた三角形の屋根窓が、対称性を強調して端正な意匠となっています。



* 八百平商店建物群 (旧山下邸) <未登録>

江戸末期に創業された雑貨商で、最盛期には市内に 4 か所の支店を持っていたといい、東金旧道文化財建物群のひとつ。明治 30 (1897) 年の土蔵造りの店舗をはじめ、離れや土蔵など 9 棟の建物が上総の黄金町と呼ばれた東金の様子を伝えています。かつて商品を運搬していたとされるトロッコの遺構もあります。市民有志の保存活動がおこなわれており、文化財登録を目指しているそうです。



<赤山地下壕跡（館山市指定史跡）は、昨年11月より再び休壕中です。>

2024年8月に壕内の発電室天井モルタルが一部剥離崩落し、1年半にわたる休壕中にモルタル壁は全面剥離されました。内部には鉄筋と竹骨の網羅が施工されていました。2025年4月に再開されたものの、11月にはモルタル剥離後の岩盤が崩落し、再び休壕となりました。現在館山市では点検調査の予算がつき、今後の修復方針を検討することですが、再開の見通しは未定です。当面、NPOのスタディツアーガイドは、大房岬要塞群を中心に実施しています。新聞は昨年夏の記事です。

毎日新聞 2025.8.16付

館山のNPOがツアーガイド

「戦争遺跡」を後世に

戦争経験者が年々減り、当時を知る手がかりになる戦争遺跡の重要性が高まっている。だがどこにどんなものがあるかわかりにくく、私有地の中にあることが難しい遺跡もあるため、保存や継承が課題だ。そんな中、館山市に事務局を置くNPO法人「安房文化遺産フォーラム」は、地元の戦争遺跡の調査や保護活動に取り組み、現地を案内するツアーガイドもしながら、後世に伝えていこうとしている。【岩崎信道】

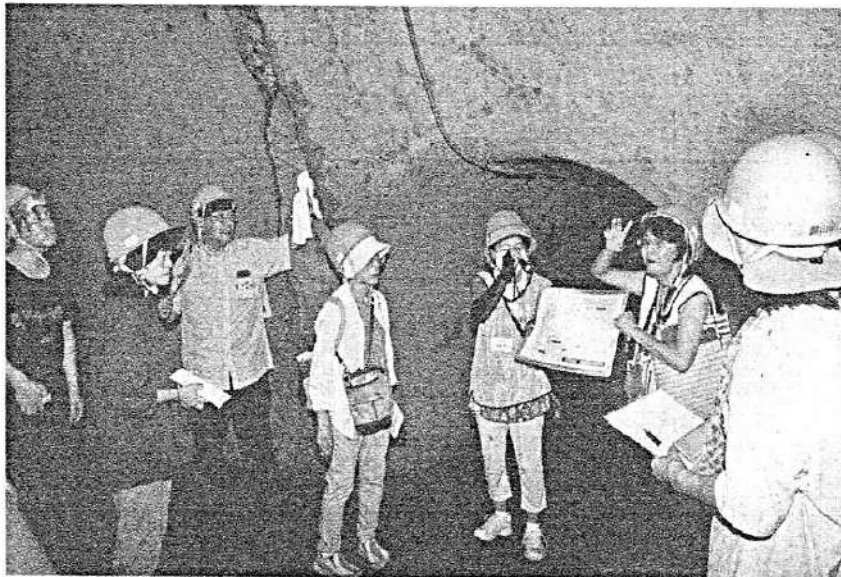
戦後80年

8月4日、歴史教育に関わる教員や研究者らの団体のメンバー15人が全国から館山市に集まり、市内の戦争遺跡を見学するフォーラムのツアーに参加した。一行は航空機を敵の攻撃から守るための格納庫・掩体壕や、本土決戦の抵抗拠点として建設された地下壕の「1号8高地」などを巡った。

総延長が1・6キロあり、中に発電所や治療所の跡も残る館山地下壕。見学の間に約1時間の座学もあった。赤山地下壕には戦後、旧日本陸軍で細菌兵器開発をした731部隊にいた男性が住んでいたことや、1945年9月

海軍航空隊赤山地下壕では、参加者は規模の大きさに圧倒されていた。爆薬を使わず、すべてツルハシなどで掘られたという説明に、参加者から「ええっ」と驚きの声があがった。

調査や保護活動、草刈りも



赤山地下壕を案内するNPO法人「安房文化遺産フォーラム」の共同代表、池田恵美子さん（右から2人目）と、説明を聞く参加者ら＝館山市で

フォーラムは戦争遺跡だけでなく、参加者の要望に合わせて史跡ガイドをしており、小説「南総里見八犬伝」で知られる里見氏ゆかりの地を巡るコースなどもある。問い合わせは同フォーラム、電話（0470・22・8271）かEメール（awabu.nka@awajp）。

調査や研究だけでなく、遺跡周辺の草刈りをして土地所有者の理解を得るなどし、ツアーを続けている。ただ1号8高地は劣化が進み、フォーラムの池田さんは「団体で中に入れるのは今回が最後になるかもしれない」と話す。戦後80年でそうした難しさも出てきたが、これからも地域の遺跡を伝える活動を続けていくつもりだ。

3日から4日間、館山市内は日本本土で唯一、直接軍政が敷かれた史実などが紹介され、メモを取る人もいた。ツアーに参加した1人で、北海道で大学講師などを務める平井敦子さん（63）は「こうした遺跡を残していこうという市民がいて、後世に伝えていこうとする取り組みが素晴らしい」と語った。フォーラムは赤山地下壕の一般公開が始まった2004年、地域にある歴史・文化遺産の調査研究やガイド事業をしているところ、NPO法人として設立された。代表は元高校教師で、1989年から市内遺跡の調査を続けてきた愛沢伸雄さん（73）だ。赤山地下壕についても自身の調査結果を市に提供し、05年の市の史跡指定につながった。

◇ **哲学対話×映画『医の倫理と戦争』**

前売 2000 円・当日券 2200 円



7月11日(土) 15:00~19:30 **VILLENT 秋葉原** (千代田区岩本町 3-11-7 滝上ビル)

ゲスト **永井玲衣さん** (哲学者-文筆家) 詳細・予約 <https://peatix.com/event/5046295>

先の大戦において医師らが戦犯に加担し人体実験をくり返した「731 部隊」と、現在の医療課題に焦点をあてたドキュメンタリー映画。企画者は南房総市の伊藤真美医師。NPO の池田恵美子共同代表が登場し、赤山地下壕跡を案内しています。戦後赤山に住んでいたキノコ研究者は、731 部隊に所属していたことを晩年に証言しました。

哲学対話とは、日常の小さな問いをみんなで考える場です。互いの声に耳を傾け、対話を通じて問題解決や気づき、良好な関係を生み出す機会です。

映画「医の倫理と戦争」全国上映スケジュール
<https://inorinri.wordpress.com/> (詳細は映画の公式サイト参照)

7/18 (土) 大阪府大阪市	8/9 (日) 岡山県岡山市
7/19 (日) 東京都練馬区	8/11 (祝) 東京都新宿区
7/25 (土) 千葉県千葉市	8/22 (土) 東京都北区
8/1 (土) 東京都目黒区	8/29 (土) 北海道夕張市
8/7 (金) 石川県金沢市	9/13 (日) 東京都国立市



◎ **第 30 回安房地域母親大会** 資料冊子 500 円

2025 年 2 月に開催した本大会では、安房大神宮の森コモンプロジェクト主宰の高田宏臣さんと、哲学者の永井玲衣さんを講師に招きました。参加者 200 人は、活動報告と哲学対話からそれぞれ気づきを得て、感銘をおぼえました。房州弁で憲法 14 条も好評でした。講演内容は QR コードから YouTube を視聴できます。レジュメを収録した冊子も頒布しています。



◎ **第 67 回千葉県母親大会/第 31 回安房地域母親大会** (共催)

資料冊子 500 円

2025 年 11 月、「戦後・被爆 80 年 今平和の願い新たに、そして次世代に」をテーマに開催。房州弁で憲法 9 条、戦後 60 年の館山で制作された映画『赤い鯨と白い蛇』上映、被団協事務局次長児玉三智子さんの記念講演、歌手美地さんのミニライブ、NPO の地域報告「館山まるごと博物館」など。こちらも QR コードから YouTube を視聴でき、資料冊子も頒布しています。



◇ **歴史教育協議会全国大会 第 77 回 滋賀大会** 大会テーマ「地域から平和と共生の世界をきづく」

8月9~11日(日-火) 会場：**ヴォーリズ学園 近江兄弟社中学・高等学校** (滋賀県近江八幡市)

オンライン参加可

参加費：一般・教員 5,500 円
(当日 6,000 円)

※現地見学は別途

	9 30	10 30	11 30	12 30	13 30	14 30	15 30	16 30	17 30	18 30	19
9日(日)		全体会 地域実践報告				分科会					地域に 学ぶ集い
10日(月)		分科会		昼食休憩 1時間	分科会		閉会 集会				
11日(火)				現地見学	各コース						

◇ **第 29 回戦争遺跡保存全国シンポジウム土佐清水大会** 8月22~24日(土-月)

会場：**土佐清水市立中央公民館** (高知県土佐清水市) 参加費 2,000 円 現地見学会 3,000 円

記念講演「少年万次郎を育んだ故郷・土佐清水」(土佐史談会副会長 田村公利氏)

分科会 ①保存運動の現状と課題 ②調査の方法と保存整備の技術 ③平和博物館と次世代への継承

◇ **韓国・第 2 回日帝戦争遺跡保存全国シンポジウム 光州広域市** 10月17~18日(土日)

韓国でも日帝国戦争遺跡ネットワークが発足し、交流が進んでいます。日韓両国の共同研究も期待されます。